

諸国の教会

2012年2月25日 リバイブ・イスラエル・ミニストリーズ

諸国の教会という概念には新約聖書の最初から終わりまで、マタイ書から黙示録までという過程が存在します。同様に第一世紀から現在まで教会の発展があります。イエシュアはペテロに「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。」**マタイ 16:18**と言われ、教会を起こされました。主は建物や宗派について述べられたのではなく、イエシュアにある真の信仰という共通要素によって定義される人々の集団について述べられました。

ここでのギリシャ語は「エクレシア」その意味は「呼び出された人々」というものです。各国内の大半の人々はイエシュアを信じませんが、少数は信じています。彼らはその国内の選ばれた残りの人々と呼ばれています。すべての国にいる信仰の残りの人々は共に諸国のエクレシアを形成しています。

ヨハネ 17章において、十字架にかかれる直前、イエシュアはエクレシアのために大いなる祈りを捧げられました。それらは、神と一つになること、互いに、権威、栄光、愛、聖であること、そして世界を宣教するための能力において一致することです。この祈りは エクレシアを動かしましたが、それはその時の弟子たちによってのみ、部分的に理解されたものでした。

エペソ 1:20において使徒パウロはエクレシアをこの世界の権威を超えてイエシュアが治める集団と説明しています。**エペソ 2:7**では神の豊かな恵みを受け取る器として、**エペソ 2:12**ではユダヤ人と異邦人との協力体制、さらにイスラエルという連邦へ異邦人が組み入れられることとして、**エペソ 2:20**では神の住まわれる場所として、**エペソ 3:10**では御使いや悪魔らに対して神の力を示すその道具として、**エペソ 4:16**ではメシアの体の一致、そして**エペソ 5:27**では主の親密なる花嫁として、エクレシアについて語っています。

諸国のエクレシアについて最終状態は**黙示録**に書かれています。エクレシアの完成は終わりの時に起こります。教会に関する啓示は今にいたるまで段階的です。エクレシアには二つの部分があり、より小さい部分はイスラエルにいる残りの人々であり、より大きい部分は全世界の国々にいる残りの人々です。

黙示録 7:4 -それから私が、印を押された人々の数を聞くと、イスラエルの子孫のあらゆる部族の者が印を押されていて、十四万四千人であった。

黙示録 7:9 -その後、私は見た。見よ。あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、だれにも数えきれぬほどの大ぜいの群衆が、白い衣を着、しゅろの枝を手にとって、御座と小羊との前に立っていた。

これが神の芸術作品です。主は絵画または像を創られているのではなく、人々の集団を創り出しています。それはまるでイエシュアを指揮者とするオーケストラのようです。様々な種類の人々の調和が美を生み出します。それぞれの人は賜、文化、能力にあって異なっていますが、一つの霊における調和によって一致しています。この美は一致のある多様性の中に見いだせます。もし虹が単色であったならば、それは美しくないでしょう。また、もしすべての色が衝突した場合(訳注:あるいは色の不調和)、それは美しくないでしょう。

それぞれの国には強みと弱みがあります。各国のエクレシアが主のためにそれぞれの賜を使う時、そこには聖と力があります。もしこれら同じ賜が自己中心的な動機で使われた場合、それはこの世的な罪という結果になります。ヨハネ 17 章の祈りの中に、イエシュアはその他の要素より、それ以上にこの「世」から離れなさいと呼びかけられました(ヨハネ 17:6、9、11-13、14、15、16-19)。

たとえば、ブラジルの教会には愛、親愛の情、楽しみ、交わり、音楽などの賜があります。もしその他の国々がこれらの賜をこの世のために用いると、その結果は「カーニバル」、すなわちこの世の大いなる肉的な祝祭です。韓国の教会は規律、熱意、命令に対する尊重、祈り、宣教などの賜があります。もしこれらの賜が間違った使われ方をすると、その結果世界の中で最悪の宗教的なカルトとなるのです。同じような例をそれぞれの国で挙げる事ができるでしょう。

黙示録 7 章にある諸国のエクレシアは、各国が自身の言語と国民性を維持しつつ、共に礼拝を捧げるのです。例えば、イスラエル人のメシアニックジューとパレスチナ・アラブクリスチャンが聖餐を共にする時、私たちは互いの文化の違いを尊重しつつ、霊にあって一致を祝うのです。世界は丸く回転しますので、現在、どの日の毎時間、世界のどの場所で、各言語のどの国民において神の玉座の前で賛美と礼拝が捧げられています。

この御言葉に述べられているように、終わりの時にイスラエルのメシアニックジューの、残りの人々に重要な役割があります。残りの人々が第一世紀の時のように回復するだけでなく、イスラエル人の残りの人々と諸国のエクレシアとの十全な協力関係があるでしょう。黙示録 12:1 においてイスラエル人の残りの人々と諸国のエクレシアを、栄光を受けた、太陽をまとった、頭上に 12 の星の王冠をかぶった女性として述べられています。この預言的な図は私たちの時代において成就しようとしています。

エステル断食

エステル書は紀元前5世紀の歴史的な事件を述べたものです。しかし、それには中東での終わりの時について預言的なメッセージを含んでいます。現在のイスラエルとイランとの問題がある中、このメッセージが今まで以上に今日的な意味を帯びています。この聖書的でありユダヤの祭日である エステルの断食は大変重要です。どうか 3 月 7 日の午前 6 時~午後 6 時まで(日本時間:同日午後 1

時から翌8日午前 1 時まで)の祈りと執り成しに加わって頂きたいと思います。詳細はこちらをご覧ください。<http://mishkanelohai.com/esther/>(英語)

ブラジル

今週アシェルとシュロモ(訳注:「ソロモン」のヘブライ語発音。アシェル師の息子。)が継続してブラジルで活動することについてどうぞお祈り下さい。彼らが強められ、油注がれ、ブラジルのキリストの体に対して新しいメッセージを行えるようお祈り下さい。

兵士の証

「O さん」は最近兵役を終えた兵士で、彼女のために開かれた送別会についてケヒラー(訳注:「集会」という意味。)で証をしました。多くの兵士たち、そこには司令官や将校も含まれるのですが、彼らが彼女の信仰によって、どのように触れられたかを証しました。ある兵士は、彼女にイエシュアの名を口に出すことを許さなかったのですが、彼のために彼女がイエシュアの名によって祈ることを許しました。どうか「O さん」が兵役中にまいた多くの種が成長し実を实らせるようお祈り下さい。

イラン人の牧師

どうかイラン人の牧師であり、イエシュアへの信仰ゆえにイランにおいて死刑宣告を受けているユーセフ・ナラルカニ師が奇跡的に解放されるよう、お祈り下さい。